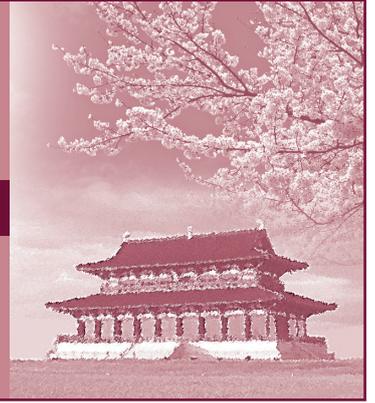


奈良経済産業協会

NARA ECONOMIC AND INDUSTRIAL ASSOCIATION

NEWS

令和6年1月 第68号



謹賀新年

令和6年 年頭のごあいさつ



奈良県知事
山下 真

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

一般社団法人奈良経済産業協会の皆様には、清々しく新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、平素より県政の推進にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、国内の景況について、法人企業景気予測調査（令和5年7～9月期調査）結果の概要（内閣府・財務省）によると、大企業及び中堅企業は「上昇」超で推移する見通しとなっています。一方で、中小企業はこれまで「上昇」超で推移していましたが、令和5年10～12月期に「下降」超に転じる見通しとなっています。また、本県の経済情勢については、奈良県内経済情勢報告（令和5年10月判断）（奈良財務事務所）によると、総括判断として「県内経済は、持ち直している」となっています。一方で、先行きとして「物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」となっていることから、今後も予断を許さない状況であると思います。

知事就任以降、豊かで活力のある奈良県を創ることが大きな目標であると考えてきました。現状では、本県経済はその潜在力に見合った成長を実現できておりません。また、企業のリアルな「声」（ニーズ、課題）を起点とした産業政策の展開が不十分であると考えています。

そこで、事業者の皆さまに意見や要望などを細かに聴き取り、ニーズや課題を起点とした本県産業政策の再構築を目指し、「新しい産業政策」の方向性について、昨年12月に公表いたしました。

事業者の皆様から伺った、切実で最も多かった声は「人材確保難、人手不足」でした。本県の現状として、人口減少に加え、県内で学んだ学生が県外へ流出し、若手の人材が不足していることが大きな課題の一つであるため、柱の一本目に据えました。

その他にも、「用地確保と先進的なグリーン化」「生産性向上と新規事業への強力な支援」「行政対応の不満・ボトルネック解消」「新たな成長のフロンティア（海外展開）」「重点的な外国人材の呼び込み」「企業価値を次世代につなぐ事業承継」「スタートアップへの新たな支援」の柱を据えました。

これらの奈良県の成長に必要な「8つの柱」に基づき、新しい取組を展開してまいります。

さらに、物価高騰を克服するための支援として、様々な分野について、6月補正予算以降、9月、12月と切れ目なく補正予算を計上し、事業実施を行っているところです。ぜひ、積極的にご活用いただきたいと思います。

これからも、県民の皆様のご意見やご提案に耳を傾け、力を合わせてより良き未来を築きたいと考えています。その中で本県を代表する企業の集まりである貴協会の果たす役割は大変重要となります。地域の知恵・技術の取りまとめ役として、新たな事業機会の創出に挑戦いただくなど、更なるご活躍を期待申し上げるとともに、今後とも本県経済発展に向けた重要なパートナーとして県政へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が皆様にとって健康で幸多い年になりますよう心から祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。



年頭のごあいさつ



一般社団法人奈良経済産業協会
会長 平越國和

新年あけましておめでとうございます。

本年が皆様方にとりまして、良い一年でありますよう心よりご祈念申し上げます。

3年に亘ったコロナ禍も、5月の第5類引下げ受け、経済活動も徐々に活発化し、外国人観光客も多く訪れる等、コロナ禍前に戻りつつあります。

ただ、米中対立やウクライナ問題など不透明な部分が多くある中、原材料やエネルギー費等の高騰や、人手不足は大きな経営課題となっています。

特に、人手不足はほぼ全ての産業で喫緊の課題であります。日本の労働人口は少子化の影響もあり、急速に減少しています。

単純に不足を補う、従前の延長だけでは限界があります。そのため、現在の仕事の仕組み・やり方そのものを変革して、知恵を出し合い工夫してムリ・ムダ・ムラをなくし、生産性の向上を図り、多能工化を進めながら、仕事の総量を削減して、人手不足を乗り越えていくしかないと考えます。

社内で全て行うのか外注を活用するのか、人手の作業のままか機械化・自動化していくのか等、仕組み・やり方そのものを変革するという事は、「やることとやらないこと」を明確にして本気で取り組むことだと言えます。

その過程では、これまでと違うやり方への反発はあろうかと思えます。なぜ、改善していくのかを従業員と共にしっかりと考え、理解を得ながら、よりよい姿を探求していくしかないと考えます。

これらの取組を通して、業務の見直し・ムダの削減によってコスト削減にもつながることで、原材料やエネルギー費の高騰による事業コストを軽減することに繋がるとも言えます。

また、DXの活用やロボット等による業務の自動化・省力化も大変有効で活用が欠かせないと考えます。実際、製造業だけでなく、調理・配膳や受付業務など飲食・サービス業においても導入されきていることはご存じの通りです。

これら新しく高度な手法を導入していく上では、スキル・知識の習得・育成が不可欠で、新しい業務に対応していく人材の育成が重要となります。

人手不足の中では、経験者や有資格者の採用は難しいことから、意欲ある人材を一から育成していくことも必要だと考えます。

もし、スキル・知識を有する人材が固定化していると、他の人では代替できないため、特定の人に業務が集中するため長時間労働になりがちで、また業務を裁く中でリードタイムも延びがちになるので、育成による多能工化を図ることは重要で人手不足の対策の大きな柱であると言えます。

しかし、新しい技術には、新しい危険が隠れています。メリットだけでなく、そのデメリットもより理解して活用することが大事です。今話題の“Chat GTP”の生成AIも、作成された内容の正誤や情報の流出などに注意して活用することが例として上げられます。

これからの人手不足の時代においては、これまでのように人材を選ぶだけでなく、逆に人材から選ばれる企業になることが重要となります。

そのためには、労働条件のみならず、働く人が働きがいを持って働ける企業風土や、頑張ったことが公正に評価され納得性の高い仕組みが不可欠であります。そのためには、会社の考えをしっかりと伝えながら、コミュニケーションを深めることが重要です。コミュニケーションは“質より量”と言われるように、日頃から短くとも頻度の高いコミュニケーションが大切になってきます。

人材に選ばれ・定着して活躍してもらえる企業作りが不可欠であり、企業存続の重要なカギであります。当会は、“企業は人なり。人材の活躍なくして企業発展はなし。”を標榜しており、本年も自ら考え行動でき、企業発展を支える人材の確保・育成に注力して取り組んで参りたいと考えます。

本年も微力ながら、奈良県産業の振興・発展に誠心誠意取り組んで参りますので、皆様のご協力ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

国内産業視察

総務委員会主催 (R5.10.24・25)

今年の産業視察は10月24・25日に兵庫県淡路島・明石方面を訪問し、企業視察と共に、兵庫県の素晴らしい施設を幅広く学んで参りました。

1日目：10月24日（火）

パナソニック様淡路島拠点「のじまスコーラ」

同社は、人材派遣等の人材に関わるサービスを展開されており、本社機能を分散し淡路島に移転を進めておられます。

当日は、閉校した小学校を改装してマルシェ・カフェ等の複合施設として開設された「のじまスコーラ」にて、淡路島における地域創生の取組についてご解説頂きました。

淡路島に誘客する観光施設の充実、農業のベンチャー企業や六次産業化の支援など、雇用創出・人材育成・文化創造の観点からの地元で根ざした地域創生の取組は大変参考になりました。



パナソニック エナジー南淡(株)

同社は、民生用・産業用の機器に使用されているリチウムイオン電池の外装缶・封口体等の電池部品や電池・パック等について、淡路島内の3拠点を中心に、一貫生産をされています。

当日は、同社三原工場を訪問し、取組をご解説頂き工場を見学させて頂きました。

リチウムイオン電池は電池内セパレーターへの異物混入が原因で発火する危険性があるため、品質の向上と共に、異物混入を撲滅する生産・検査体制を構築されており、人材育成を含めた安心・安全なものづくりが大変参考になりました。



2日目：10月25日（水）

川崎重工業(株)明石工場

同社明石工場では、3つの事業カンパニーにおける製品群を製造されておりおられます。

レジャー&汎用製品群として、二輪車組立工程では、車種やモデルが異なる製品が1つのライン上で順次組立てられる工程を見せて頂きました。

溶接用・組立用の産業用ロボット群では、用途・サイズ別に組み立てられ、動作検査でロボットアームが高速で動く様子一同驚いておられました。

逆にガスタービン発電設備等はエンジン部分や外装部品が一品一様に仕様に合わせて、生産されている工程を見学させて頂きました。



アサヒ飲料(株)明石工場

同社工場では、約140年続く三ツ矢サイダーをはじめ、コーヒーやお茶等のペットボトル・缶の各種製品を製造されています。

ペットボトル・缶の製造工程や、洗浄・充填・梱包の各行程について解説を頂き、複数のラインで、製品が非常に速いスピードで工程を流れて生産されていく様子を見学させて頂きました。

また、併設されている「三ツ矢サイダーミュージアム」では、三ツ矢サイダーの歴史を解説頂くと共に、サイダーの試飲もさせて頂き、身近な製品をより身近に感じることができました。

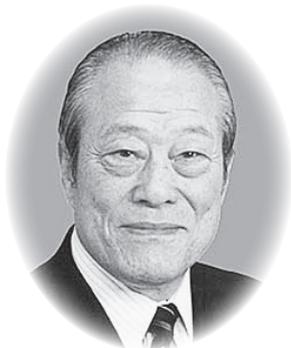


上記以外にも野島断層保存館や明石市立天文科学館も訪問し、充実した視察となりました。

令和5年秋の叙勲受章おめでとうございます！

令和5年秋の叙勲に

当会会員企業 奈良県職業能力開発協会 会長 出口武男様 旭日中綬章
当会 副会長 奈良交通株式会社 元相談役 中村憲児様 旭日小綬章
を受章されました。会員ともども、お祝い申し上げます。



旭日中綬章

奈良県職業能力開発協会
会長 出口武男 氏



旭日小綬章

奈良交通株式会社
元相談役 中村憲児 氏

成果を上げる業務改善

人材育成委員会主催 (R5.11.17)



くぼつ経営研究所
代表
窪津正充氏

業務プロセスを見直し、改善の考え方や改善の着眼点、具体的な進め方を学び生産性向上を図るため、(独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構【ポリテクセンター】様の委託を受けて、『生産性向上支援訓練』を実施いたしました。

講師は、くぼつ経営研究所代表の窪津正充様に「成果を上げる業務改善」をテーマに、ご指導頂きました。

業務改善を行うには、業務を可視化してムダの可視化をすることが重要で、7つのムダの意味・考え方をご解説頂きました。特に動作・運搬・停滞のムダは改善効果が大きいことから、現場の課題のを見つけ方・対策について、現場改善の取組事例をもとに、具体的にご指導頂きました。

個人演習では、実際の生産現場の様子を事例に、そこに潜むムダを見つけて出し、その対策を考えながら、ムダを見つける目を養いました。

具体的に業務改善を進める上では、QCストー

リーに則り体系的に、問題発見～現状分析～要因解析～改善実施を行うことが大切で、各ステップのポイントや取り組み方を、QC手法の意味や使い方を含めてご解説頂き、改善の流れをPDCAで回して行く方法と重要さを学びました。

グループ演習では、『自社現場のムダ』に関する改善案を検討し、自社の課題やムダについて、現状分析から特性要因図を作成して、課題の要因を整理し、改善の手順にそって具体的に改善を考えて発表する等、業務改善に直結した役立つ内容で実践的に行いました。

今後は「原価管理とコストダウン」をテーマに、原価の仕組みの理解や工程・作業を見直したコスト削減により生産性向上へ繋げるよう実施します。



経営者懇話会（第2回）

人材育成委員会主催 (R5.11.9)

経営者懇話会第2回目は、同志社大学社会学部産業関係学科教授 松山一紀様に『職場の人間関係とコミュニケーション』をテーマにご講演頂きました。

＜ご講演の要旨＞

「日本人の仕事への熱意（エンゲージメント）は先進国の中でほぼ最下位である。欧米では、会社が自分に合わなければ、熱意を持って働ける会社へ転職する。そのため、自身の会社に対する帰属意識は高い。逆に日本人の意識調査では、“不満があって転職したいと思うが、このまま会社に居るだろう”が約40%であり、離職率も低いですが仕事に対する熱意も低く、部下に対しても無関心で、労働生産性低下の原因となっている。半面、若者の離職率は高く、これは新型コロナの流行による社会の急激な変化、リモートワーク・WEB会議等による対面での対話が少なくなり、人間関係が希薄化したことも一因と考えられる。経営者は社員が抱えている問題や、会社・仕事に対する意識を把握（モラルサーベイ）し、課題を明確にして改善を図ることが求められる。特に人間関係については、社員の個性や働き方に合った方法で、積極的にコミュニケーションを図っていくことが重要である。例えば、社内報やレクリエーション、社内バー、部活、ランチ会等々を制度化して、人間関係を構築する機会を設ける会社が増えてきている。注意すべきは、人それぞれ価値観が違うため参加を強制するのではなく、人が自然に集まるような仕組みや空間を作ると大変効果がある。部署や役職を超えたコミュニケーションは、部署間の連携の向上、メンターとの出会い等、社員自身の帰属意識や熱意が高まり、離職率の低下、社内全体の生産性向上に繋がっていく」とお話いただきました。



同志社大学
社会学部
教授 松山一紀氏

大学・企業懇談会

人材育成委員会主催 (R5.11.27)

企業の人事担当者と大学の進路指導担当者との理解と交流を深め、今後の人材確保に役立てるために「大学・企業懇談会」を開催致しました。

始めに、事前に実施した大学と企業双方へのアンケート調査結果の報告と共に、(株)マイナビ 就職情報事業本部 松田信秀 様から「今期2023年の就職・採用状況と来期2024年の展望」についてご報告頂きました。



(株)マイナビ
就職情報事業本部
地域人材支援担当
部長 松田信秀氏

松田様からは、「コロナショックの反動で、昨年比に比べて新規求人数を増やしている企業が増加している。金融、マスコミ、ソフトウェア関連の業種は採用予定数を確保できているが、建設、小売りは採用予定数を確保できていない。また、6月時点の採用充足率は、「5割以上」という企業が39.5%となり前年比-4.8ポイントとなっている。6月時点でインターンシップ実施あり企業の51.1%が採用予定数の半数以上を充足しているが、インターンシップ実施なし企業の53.5%が採用予定数を充足できていない。」と解説を頂きました。

次に、双方の質疑・意見交換会を行いました。

大学側からは、障害者雇用における採用基準に関する質問があり、企業側からは、事前に工場見学や職場実習を踏まえて仕事のステップを上げていくように対応しているとの回答がありました。

企業側からは、最初から中小企業を主に就職活動を実施している学生の割合についての質問があり、大学側からは、地元就職を希望する学生が増加傾向にあるので大手企業以外への就職活動が必然的に増えているとの回答がありました。

意見交換の延長として、個別に情報交換を図るための名刺交換の場も設定し、より良い就職・採用活動に繋がるように交流を図りました。



～広陵化学工業株式会社～



代表取締役社長
中西 勝氏

<企業情報>

会社名：広陵化学工業株式会社
創業：昭和 38 年 (設立昭和 44 年)
住所：〒 635-0816
北葛城郡広陵町中 167
社員数：83 名
業種：プラスチック製品製造業
URL：<https://koryo-kagaku.co.jp/>



五條工場

社長様のインタビュー

Q1. 創業された経緯と事業内容

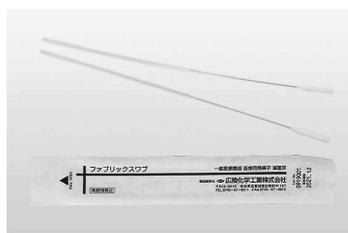
我社は 1963 年の創業以来、広陵町と五條市に根を下ろして、主に食品容器や臨床検査機材の製造販売を生業としてまいりました。創業当時、プラスチック製品は将来性の高い有望な事業分野とみなされておりました。創業者の東洋一は、その機会に乗じて事業をスタートさせてから今日まで 60 年の歴史を刻んでまいりました。

2025 年には広陵町の本社工場に隣接して、主に医療機器を生産する新工場が完成します。

医療機器をこれからの成長のけん引役に育てることが私に課せられた使命だと思っています。

Q2. 貴社の強み

医療機器事業の拡大化を図る上で我社が誇る強みは、本社と五條の両工場に設けたクリーンルームで医療機器の生産実績を数多く積み上げてきたこと、医療機器を生産するための新工場が 2025 年度中に操業を開始すること、ISO13485 の認証を取得することで医療機器の品質マネジメントシステムを確立していること、異業種企業などとのネットワークを活かして多種多様なニーズに応えられる体制を整えていること、すべての従業員が品質に対する高い意識を持っていることの五つです。



純国産検体採取用スワブ
「ファブリックスワブ」

Q3. 貴社の人材育成・技能伝承または働きやすい職場づくり等のお取り組みについて

我社はこれまで下請け業者として、元請け企業から示された仕様を忠実に再現することが主たる業態でした。

今後は、医療機器を中心に自社ブランド製品が増えます。自社ブランド製品の開発を通して、社員の皆さんが自ら考える力を養い、それを実行できるようにになって欲しいと願っています。

そして社員の皆さんが自らの成長を実感でき、それにふさわしい処遇を約束できる会社に変えていきます。

Q4. 今後の事業展開について

医療機器の分野では、感染症と再生医療をターゲットにして事業を展開します。感染症分野では医療用スワブの商品化を急ぎます。当製品は、国内市場の 90% を海外製品が占めており、先のコロナ禍で深刻な品薄状況が生じました。サプライチェーンの強靱化が求められており、我社はこれを好機と捉え製品化を強力に押し進めます。

再生医療分野では細胞培養容器の商品化を目指します。これからは再生医療の産業化が大いに進みます。それに伴い当製品の需要も急激に拡大することが確実です。

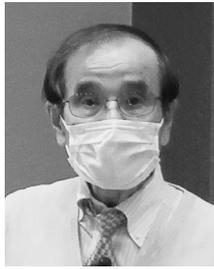
我社は他に類を見ない新規性と優位性を備えた「世界初の細胞培養容器」の商品化を実現します。

我社はこれらの製品から得られる高い利益を還元することで、また業容の拡大によって雇用を創出することで地域社会への貢献度を高めてまいります。

職場改善活動研修会（活用編）

人材育成委員会主催（R5.12.5）

品質向上やコスト削減には現場力の向上が不可欠であり、その現場力を高めるために、小集団活動やサークル活動などの職場改善活動は、大変有効且つ重要な手段です。



QCサークル近畿支部
大阪近畿南地区
顧問
北野邦弘氏

この改善活動を具体的に進める上で、実践的に役立つQC手法や活用方法について、6月に開催した基礎編に引き続いて、「職場改善活動研修会（活用編）」を開催しました。

講師には、改善事例発表会でご指導いただいておりますQCサークル近畿支部 大阪・近畿南地区顧問の北野邦弘氏にお願いしました。

主な研修内容として、QC手法（パレート図、特性要因図）の確認、要因の解析や解決手段の検討に役立つ系統図・マトリックス図の解説と演習、問題解決の手順とQC手法の活用方法等、事例を交えて詳しく解説を頂きました。

特に、観察チェックシートを使って、改善の基礎となる「仕事に潜むムリ・ムダ・ムラ」のを見つけ方を学ぶなど、製造現場だけでなく、営業・事務・サービス部門でも活用できる有効な手法をご指導いただきました。

また、「ゴム鉄砲で的を倒す」ことを現場の課題に見立て、ユニークな手法でグループ演習を行いました。

「的を倒す」目的の為に、ゴム鉄砲で的を打った結果のデータを元に、「的が倒れない」を特性にして特性要因図で要因を解析し、更に系統図で対策案の検討を行い、その対策を具体的に実施し、的を倒す目的のために効果的な方法を検討しました。

実際の現場での改善の進め方に則った演習を通して学ぶことで、QC手法を活用して現場改善に役立てて頂けると考えます。



環境ISO内部監査員養成講座

人材育成委員会主催（R5.12.6-7）

環境ISOの規格で求められる内部監査に関して、教育訓練の一環として、内部監査員の力量の担保や向上と共に、ISOに関係する社員・責任者の認識を補完しあう、内部監査員の養成を目的に、恒例の環境ISO内部監査員養成講座を2日間コースで開催しました。



伊田ISO事務所
代表
伊田嘉昌氏

講師には、審査機関で審査員として活躍されると共に、企業の認証取得コンサルタントとしても活動されている、伊田ISO事務所 代表 伊田嘉昌様にお越し、ご自身の経験を踏まえて、「監査する側」と「監査される側」の双方の視点から熱心にご指導を頂きました。

研修では、規格の要求事項の解説と共に、マネジメントシステムとして経営に寄与できるように、効果を上げるために内部監査の重要性など、具体的な事例を含めて学びました。

また、演習では、監査におけるチェックシート作成や現場監査事例からの不適合抽出、監査後の是正処置報告書の作成など、実際に行う内部監査の手順に沿って、内部監査の計画作成から監査結果報告までの一連の流れを、より実践的な内容で実施しました。

個人演習として、法令・規制要求事項に関する問題や監査で起きた事例から、監査チームリーダーとして、必要な対応を考えるなど、監査における重点項目の再確認を行いました。

最後に修了試験を行い、合格者には協会認定の修了証を発行しました。公的効力はありませんが、社内で内部監査員を任命するときの資格根拠としてご利用頂くことが出来ます。

今後も、ISO認証取得・維持活動の多角的な支援と共に、より効果的な内部監査に向けて実践的に取り組んで参りたいと思います。



新 入 会 員 様 ご 紹 介

村島硝子商事株式会社

正会員

【概 要】

資本金：3,600万円

代表者：代表取締役

村島靖基

所在地：〒634-0837

橿原市曲川町7-2-34

T E L：0744-23-5520

F A X：0744-23-5376

U R L：<https://mgsnsg.co.jp/>

従業員数：39名

事業内容：建築材料卸

(板ガラス・住宅サッシ・エクステリア)

弊社は橿原市のイオンモールの側で建築用の板硝子や住宅用のアルミサッシ、カーポートや室内建材、水廻り設備の代理店を営んでおります。

近年は一般のユーザーのお客様の対応に特化した「エクステリアプロ橿原店」、不動産仲介をさせていただく「リクシル不動産ショップ 村島硝子商事」もオープンし、土地の御相談から建築リフォームまでトータルにご相談を承ります。



吉村化成株式会社

正会員

【概 要】

創業：1967年2月

資本金：1,000万円

代表者：代表取締役

吉村孝勝

所在地：〒639-0263

香芝市平野81-1

T E L：0745-77-2838

F A X：0745-76-2839

U R L：<https://www.yoshimurakasei.co.jp/>

従業員数：74名

事業内容：食品用プラスチック製品製造

『プラスチックの“うつわ”で人と人をつなぐ。』をコンセプトに、創業以来、一環して食品用のプラスチック容器を製造してきました。特に長期保存可能なバリア容器が主力であり贈答用の容器として多くのお客様に採用して頂いております。

また多くの特許を保有しており、最近ではオープン調理可能なプラ容器BAKEQや、捨てる時に折り畳める容器RidUなどを開発し営業を強化しております。



事 務 局 だ よ り

代 表 者 変 更

☆株式会社KANSOテクノス 奈良支店

(旧) 中尾 浩之 (支店長)



(新) 井尻 健嗣 (支店長)

住 所 変 更

☆杉下税務会計事務所

〒630-8241 奈良市高天町48番地の5-5階



〒630-8227 奈良市林小路町8番地の1

ニッセイ奈良若草ビル5階

女 性 リーダー研修

職場の業務遂行において、大きな役割と責任を受け持っている女性社員の方を対象に、成果を導き出すリーダーシップやチームワークの醸成に向けて、標記研修会を実施致します。

部下・後輩を成長させる役割を自覚し、自身も共に成長する姿勢を持つ意味を理解します。

是非、貴社の女性社員の方々の活性化のために、多数のご参加をお待ち致しております。

記

と き：令和6年2月6日(火)

13:00～17:00

場 所：奈良県産業振興総合センター

1F イベントホール

参加費：5,500円/人(5,000円消費税500円)

(テキスト代含)

申込み：1月27日までにお申し込み下さい。

謹賀新年

株式会社丸國林業

取締役会長 平越國和

〒639-0224 香芝市別所5番地
TEL(0745)77-8431

株式会社イムラ

取締役相談役 井村守宏

〒542-0076 大阪府中央区難波5丁目1-60
なんばスカイオ18階
TEL(06)6586-6121

関西電力株式会社 奈良支社

理事 支社長 紀ノ岡幸次

〒630-8131 奈良市大森町48番地
TEL(0742)27-1276

株式会社きんでん 奈良支店

執行役員支店長 安田守

〒630-8133 奈良市大安寺6丁目20番8号
TEL(0742)62-8771

三和澱粉工業株式会社

代表取締役会長 森本俊一

〒634-8585 橿原市雲梯町594
TEL(0744)22-5531

大和ハウス工業株式会社 奈良工場

工場長 西本武志

〒630-8453 奈良市西九条町4丁目2-2
TEL(0742)64-1500

DMG森精機株式会社

取締役社長 森雅彦

〒630-8122 奈良市三条本町2番1号
TEL(0742)90-0400

奈良交通株式会社

代表取締役社長 田中耕造

〒630-8651 奈良市大宮町1丁目1番25号
TEL(0742)20-3116

株式会社南都銀行

取締役常務執行役員 杉浦剛

〒630-8677 奈良市橋本町16番地
TEL(0742)22-1131

以上、9社に協賛広告としてご協力頂きました。

奈良経済産業協会NEWS 第68号

令和6年1月発行
一般社団法人奈良経済産業協会

〒630-8031 奈良市柏木町129-1 奈良県産業振興総合センター内
TEL(0742)36-7370 FAX(0742)36-7371
<http://www.nara-eia.or.jp> E-mail : info@nara-eia.or.jp